

理論と実験の協奏

スピントロニクス材料・現象・素子

2021年 9月11日（土） 13：30～ ハイブリッド開催

電子スピンと軌道が絡み合う新材料・新現象・新デバイスの開発研究に向けて、ここ数年で話題になった理論的予測と実験的検証またはその逆で新規現象の実験的観察と理論的説明をテーマに、理論と実験の共同研究事例を概観し、理論と実験の協奏の端緒を目指します。

招待講演者／講演題目（敬称略、仮題）

- 吉田博（東大CSR、阪大CSR）
オープニング「理論と実験の協奏：スピントロニクス材料・現象・素子」
- 仲谷栄伸（電通大）
マイクロマグネティックシミュレーション
- 三浦良雄（NIMS）
軌道と四極子による磁性薄膜の結晶磁気異方性の理論
- G.E.W. Bauer（東北大）
マグノンvsフェロン
- 戸川欣彦（大阪府大）
物質chiralityを基軸とするスピントロニクス
- 平原徹（東工大）
自己組織化によるトポロジカル絶縁体の磁気拡張
- 水上成美（東北大）
計算科学と連携したトンネル磁気抵抗素子材料の探索
- 石川 諒（アルバック協働研）
スキルミオンのブラウン運動とそれを用いたゼロエネルギー計算の試み

企画： 応用物理学会スピントロニクス研究会 <https://annex.jsap.or.jp/spintro/>

世話人： 中村浩次（三重大）、岡林潤（東大）、山ノ内路彦（北大）、
好田誠（東北大）、安藤裕一郎（京大）